

高次脳機能障害者実態調査について

本田哲三¹⁾、高橋玖美子⁴⁾(^{田1)}、遠藤てる²⁾、武田克彦⁵⁾(^{田3)}

はじめに

近年高次脳機能障害が注目されているものの、生活実態はおろか実数もあきらかではなかった。今回我々は東京都内の高次脳機能障害者の実態調査にかかわる機会があったのでその概要を紹介する。

1. 対 象

対象は、(1)都内の総合リハビリ施設、作業療法(二)の施設基準と精神病床を有する病院(精神病院は無作為に1/2)、および(2)墨田区、新宿区、府中市内のリハビリ科、脳外科、神経内科、精神科を有する病院、診療所、および成人を対象とした福祉施設である。

以上の計372施設を調査期間(1週間)に受診(来院/入院/入所)した成人(18歳から64歳)の獲得性高次脳機能障害者(発症後3ヵ月以上経過し症状が安定、但し全般的痴呆は除く)を調査対象とした。

2. 方 法

対象施設には調査票と調査のための手引(高次脳機能障害を10障害と「その他」に分類)を送付し、対象者のリストアップを依頼した(表1)。

3. 結 果

- (1)回答251施設を受診した高次脳機能障害者総数は1234名であった(図1)。
- (2)原因疾患の80%は脳血管障害、10%が頭部外傷だった(図2)。
- (3)東京都の推定高次脳機能障害者数は、二次医療圏ごとに推定障害者率を算定し計算すると4177名であった(表2)。
- (4)東京都における高次脳機能障害者の推定では、医療機関に2800人が帰属しているのに対して福祉施設にも1400人の帰属が推定された(表3)。
- (5)成人(18歳から64歳)の全都民人口(7689626人)で推定高次脳機能障害者数を除すると人口10万人あたり有病率は54.3人と推定された。

4. 考察およびまとめ

- (1)従来、高次脳機能障害者の原因疾患はあきらかではなかったが、今回の調査では脳血管障害が最もおおく今後リハビリを実施していくには同疾患にあらためて注目する必要がある。
- (2)高次脳機能障害者は、医療機関のみならず福祉施設にも分散している。その意味で医療から福祉にいたる一貫したプログラムが必要である。

1) 東京都リハビリテーション病院, 2) 保健科学大学, 3) 神経科学総合研究所, 4) 高崎健康福祉大学, 5) 日赤医療センター

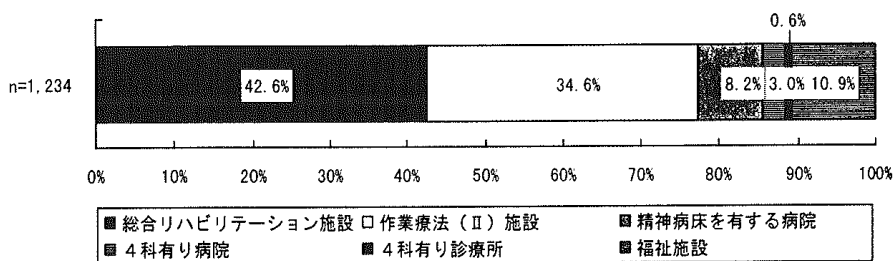
表1
調査記入用紙

貴施設名 _____ 貴診療科名 _____ 頁 _____

No	対象者 (カルテ番号など)	性別	年齢	生年月日	疾患名	受傷年月日 (発症)	高次脳機能障害										8		重複利用 に関して 注4)
							(1) 半側空間無視	(2) 半側身体失認 (身体失認)	(3) 場所的認識の障害 (地誌的障害)	(4) 失認症	(5) 失語症	(6) 記憶障害 (健忘症候群)	(7) 失行症 (動作と行為の障害)	(8) 注意障害	(9) 遂行機能障害 (前頭葉障害)	(10) 行動と情緒の障害	その他	入院 (所)	
1		男・女	S			S													
2		男・女	S			S													
3		男・女	S			S													
4		男・女	S			S													
5		男・女	S			S													
6		男・女	S			S													
7		男・女	S			S													
8		男・女	S			S													
9		男・女	S			S													
10		男・女	S			S													

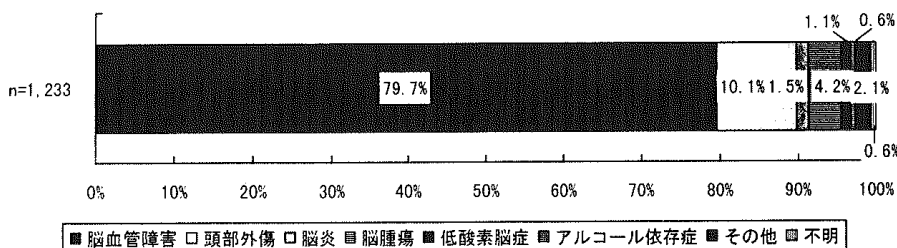
注)1：枠内の当てはまる事項を○で、かこんでください。
 注)2：(1)~(10)については枠内に○をつけてください。表記の分類に当てはまらない分類がありましたら、その他に御記入ください。
 各高次脳機能障害の分類が複数ある場合は、重複して○をつけてください。
 注)3：在宅、及び入院(所)については、枠内に○をつけて下さい。その他の居所の場合は、その他の枠内に御記入ください。
 注)4：調査期間中に他の調査対象施設を併せて利用予定、あるいは利用された場合(同じ病院の他科(リハ、精神、神内、脳外)受診も含む。)は、施設名及び診療科を御記入ください。

お願い：記入漏れがないか再度御確認ください。



病院の属性をみると、「総合リハビリテーション施設」が42.6%、「作業療法(II)施設」が34.6%である。

図1 全回答者 (1234人) と病院の属性



疾患別みると、全体のおよそ8割が「脳血管障害」である。

図2 高次脳機能障害の原因疾患

表2 二次医療圏と推定障害者率(一部)

総合リハビリテーション施設

区域	施設数	回答施設数	回答率 Xd	報告障害者数 Nd	18~64歳 人口	報告障害者数 Yd	Xd ²	Xd×Yd
区中央部	1	1	1.00000	2	399,136	0.0000501	1.00000	0.0000501
区南部	2	2	1.00000	35	668,789	0.00005233	1.00000	0.00005233
区西南部	2	2	1.00000	23	856,457	0.00002685	1.00000	0.00002685
区西部	2	1	0.50000	29	754,534	0.00003843	0.25000	0.00001922
区西北部	6	6	1.00000	67	1,179,349	0.00005681	1.00000	0.00005681
区東北部	0	0	—	—	831,842	—	—	—
区東部	2	2	1.00000	181	835,016	0.00021676	1.00000	0.00021676
西多摩	0	0	—	—	263,725	—	—	—
南多摩	3	3	1.00000	43	872,891	0.00004926	1.00000	0.00004926
北多摩西部	3	2	0.66667	13	404,073	0.00003217	0.44444	0.00002145
北多摩南部	5	4	0.80000	71	623,813	0.00011382	0.64000	0.00009105
北多摩北部	4	3	0.75000	62	456,086	0.00013594	0.56250	0.00010195
結果	$a_1 = \sum X_d Y_d / \sum X_d^2$		=	0.00007416			7.70139	0.00057110

表3 各施設別推定高次脳機能障害者数

二次医療圏	①総合リハビリ テーション施設	②作業療法 (II)施設	③精神病床を 有する病院	④4科有り病院	⑤4科有り 診療所	⑥福祉施設 ^{*)}	計
区中央部	30	24	18	47	15	71	205
区南部	50	41	30	79	26	118	343
区西南部	64	52	38	101	33	151	439
区西部	56	46	34	89	29	133	387
区西北部	87	72	53	139	45	209	605
区東北部	62	51	37	98	32	147	427
区東部	62	51	37	98	32	148	428
西多摩	20	16	12	31	10	47	135
南多摩	65	53	39	103	33	154	448
北多摩西部	30	25	18	47	15	71	207
北多摩南部	46	38	28	73	24	110	320
北多摩北部	34	28	20	54	17	81	234
計	604	499	365	957	311	1,441	4,177

^{*)}都立心身障害者福祉センターと東京都視覚障害者生活支援センターの障害者分は人口比で各医療圏に振り分けた。

(3) 今後高次脳機能障害の診断技法の確立と医師や福祉職員への周知がさらにもとめられる。